ユニチカ株式会社宇治事業所案内

Unitika Uji Office profile / Plants and Research & Development Center

UNITIKA
We Realize It!

ユニチカグループの生産・開発・研究の中枢を担う宇治事業所

ユニチカ株式会社宇治事業所は、ユニチカグループが推進するさまざまな事業領域に関わる生産拠点であると共に、研究開発の要である総合研究所を擁する、ユニチカの中核事業基地として運営しています。

「暮らしと技術を結ぶことによって社会に貢献する」

長年にわたって蓄積し、日々更新し続ける技術力。それらの力をフルに稼働して、歴史ある事業と新しい事業の融合、さらに未来に向けた開発の取り組みをグループ各社の総合力で邁進しています。

沿革

1927年 2月	日本レイヨン株式会社宇治工場運転開始
1939年11月	日本レイヨン株式会社中央研究所設置
1966年 1月	日本レイヨン株式会社京都工場発足
1969年10月	ユニチカ株式会社発足（ニチボー株式会社と日本レイヨン株式会社が合併）
1975年10月	京都工場を廃止、宇治プラスチック工場発足
2003年 3月	宇治事業所発足（宇治工場、中央研究所、宇治プラスチック工場を統合）
2023年10月	中央研究所から総合研究所へ改称

環境方針

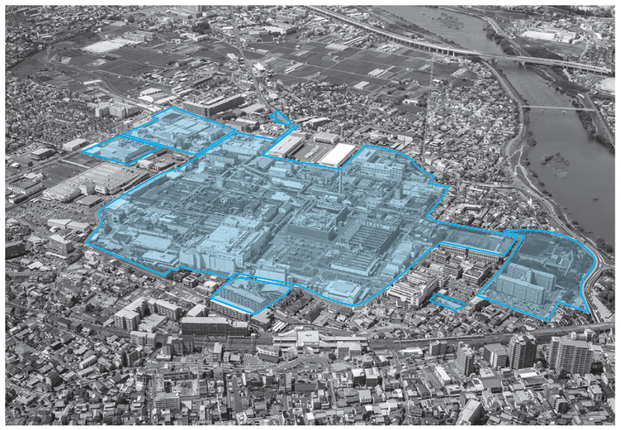
基本理念

「暮らしと技術を結び、人と自然との共生に貢献する企業活動を行う」を基本方針とする“ユニチカ地球環境憲章”に基づき、ユニチカ宇治事業所及び、その関連会社はそれぞれの事業活動を通じて、豊かで美しい地球環境の保全と、その継続的な向上に努力する。

環境方針

ユニチカ宇治事業所は歴史ある京都の南に位置し、宇治川の清流に育まれて合成繊維とフィルムの生産を基盤とした様々な研究開発と事業活動を展開している。
私たちは、この美しい歴史ある景観と清らかな水に恵まれた環境を健全なままで次世代へ引き継いで行くために、以下の基本方針に基づき活動する。

1. 当事業所が生産活動を行うに当たっては、地域社会や地球環境に与える影響を常に考慮し、環境汚染の予防に努めると共に、環境マネジメントシステムの継続的改善を行う。
2. 環境保全に関する法規制、及び当事業所が同意する地域・業界団体の協定或いは要望事項等を遵守すると共に、必要に応じて自主基準を制定し、一層の環境保全に取り組む。
3. 生産活動の全領域において、省エネルギー・省資源の推進を図ると共に、資源のリサイクルを促進し廃棄物の削減に努める。
4. この環境方針達成の為に、部門毎に技術的、経済的に可能な範囲で環境目的・目標を定めて環境管理を推進する。又、環境目的・目標は定期的に見直し必要に応じて改訂する。
5. 事業所内の関連会社を含む従業員全員への教育・啓蒙活動を推進し、環境意識の向上を図ると共に協力会社へも周知し、理解と協力を要請する。
6. この環境方針は要求に応じて社内外に公表する。



事業領域

高分子事業
Polymers

多岐にわたるユニチカの事業の核であり、原点ともいえるのが高分子事業です。１９５０年代にはじまる合成繊維の開発以来、長年にわたって培われた高分子技術を応用し、様々な製品を送りだしています。フィルム、樹脂といった現代生活を支える製品の基盤となる素材群。特にフィルム分野においては、その高付加価値によって、グローバル展開を積極的に推進しています。

機能資材事業
Advanced Materials

独自の発想と技術力の融合から生み出された機能資材事業の分野においては、プリント配線基板用ガラスクロスや耐火スクリーン、車両用照明カバーなど、幅広い分野で展開するガラス繊維や、吸着性能に優れた活性炭繊維、吸水性能に優れた高機能多孔板、土木・建築用や工業製品用などの産業資材、不織布、ガラスビーズなど、高度な研究開発が結実したユニークな製品をお届けしています。

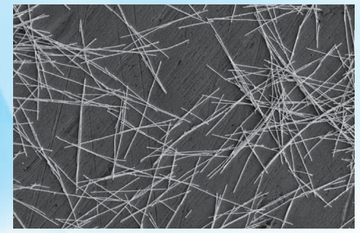
繊維事業
Industrial Fibers & Textiles

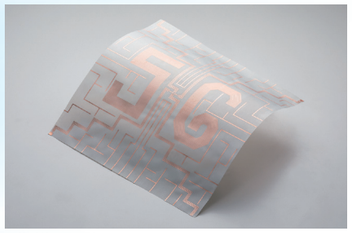
１８８９年の創業以来続く繊維事業では、原糸から生地製品、最終製品まで手掛けています。用途分野は、レディス、メンズ、スポーツウェアといった衣料を中心に幅広く展開。グローバリゼーションの進行によりさらに競争が激化するなか、グループ各社との緊密な連携によって、市場競争力を高めた多様な差別化製品を送り出しています。

総合研究所

グループ全体の「研究･技術開発の重要拠点」として

総合研究所は、ユニチカグループ全体の「研究・技術開発の重要拠点」としての使命を帯びています。
〈新製品〉〈新技術〉〈新事業〉の創出・提案を、基礎研究のみならず各事業部門と連携して、市場ニーズに直結した研究・技術開発により推進しています。また、各種分析・評価技術によって研究・技術開発の推進を支援しています。
総合研究所では、高分子化学、合成化学、分析化学をベースに顧客価値を満足する新たな製品の可能性を追求し、暮らしと技術を結びつけ、より豊かな生活環境を作り出すための努力を続けています。


導電性ナノワイヤ


柔軟耐熱フィルム

ポリアミド中空糸膜フィルター

事業所概要

ユニチカ株式会社宇治事業所は、
グループの各事業領域で活動する事業部および関連会社が
生産・開発・販売の一体感をもって、
地域社会との調和を念頭に日々活動を推進しています。

フィルム事業部

世界トップレベルを誇る 食品包装用ナイロンフィルム

ナイロンフィルム25,000ｔ／年、ポリエステルフィルム22,000ｔ／年の生産能力を持っており、ユニチカ独自の「同時二軸延伸法」により生産するナイロンフィルム「エンブレム」は、優れた強靭性・柔軟性・耐破袋性などの特性を持っています。その性能から食品包装用途を中心に使用されており、全世界で高いマーケットシェアを誇ります。
一方、ポリエステルフィルム「エンブレット」は包装用途、工業用途向けに展開しております。
また、缶貼り用フィルムや直線カット性フィルム「エンブレットPC」などの特殊フィルムをラインナップしています。
フィルム市場は毎年着実な成長を続けています。お客様のご要望に応えるため、フィルム化の基礎検討から、プリマーケティングにも対応を可能とする新鋭テスト機を保有し、次世代を担う開発を続けています。

ユニチカフィルム使用例▶

樹脂事業部

オンリーワン製品で積極展開を目指す

宇治事業所にある樹脂テクニカルセンターおよび樹脂製造プラントでは、世界で初めて量産化を実現したポリアリレート樹脂「Uポリマー」、ナイロン樹脂、ポリ乳酸樹脂「テラマック」などに高度なコンパウンド技術を付加した商品、共重合ポリエステル接着剤やエマルションなどの機能性商品の開発・生産、さらにはCAE解析を初めとする各種技術サービス・品質保証を行っています。
近年では、「Uポリマー」から派生した溶剤可溶性ポリアリレート「ユニファイナー」、耐熱性半芳香族ナイロン「XecoT（ゼコット）」、ポリオレフィン樹脂エマルション「アローベース」、ポリイミドワニス「Uイミド」といった新しい樹脂製品を開発し、販売しています。

「Uポリマー」ターンランプアンバーキャップ

「ナノコンポジットナイロン」エンジンカバー

「XecoT」掃除機向け吸引用モータの羽根部品

重合管理部

ユニチカの ナイロンチップ製造を 一手に担う

ユニチカの歴史で培った技術を駆使し、カプロラクタム原料を重合してナイロン６チップを製造しています。これらチップは、ユニチカのフィルムや成形用樹脂、繊維の原料として使用されます。ケミカルリサイクル設備も保有しており、環境に配慮した生産体制を構築しています。
また、植物由来原料を用いた高耐熱ナイロン「XecoT」の独自開発重合プラントも操業しています。

ナイロン6チップ／右上 同拡大写真

ACF事業部

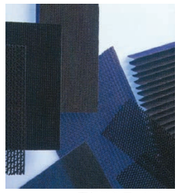
発想力と技術力が融合した機能素材

ACF生産開発部は、活性炭繊維フィルター、「ユニベックス多孔板」の２つの機能素材の開発・生産を行っています。

■活性炭繊維フィルター

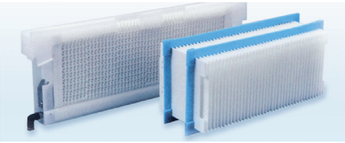
ユニチカの関連会社である株式会社アドールで製造された、吸着性能に優れた活性炭繊維（Activated Carbon Fiber）を用いて、浄水・めっき液処理・空気清浄などに利用されるフィルターの開発・生産を行っています。
素材の選定から、フィルター設計、試作、量産まで、お客様の多様なニーズにお応えします。

浄水器・めっき処理液用エレメント


空気清浄フィルター

■「ユニベックス／UNIVEKS」多孔板

吸収性に優れた「ユニベックス／UNIVEKS」多孔板の開発・生産を行っています。
空調用加湿器やドレン水処理、ペン芯素材などの用途で利用されています。


吸水性多孔板組品

株式会社アドール

地球環境の浄化と人類の健康な生活に寄与

株式会社アドールは、大阪ガス株式会社のコールタールピッチ調製技術とユニチカ株式会社の合成繊維紡糸技術が融合した、ピッチ系活性炭素繊維の製造会社です。「アドール（AD'ALL）」の名称は、英語のAdsorption（吸着）とALL（全て）から“全てを吸着する”という意味に由来します。
当社は、活性炭素繊維という優れた吸着材を製造販売することで、地球環境の浄化と人類の健康な生活に寄与することに取り組み、環境と品質の国際規格（ISO）の認証を取得しています。

活性炭素繊維（原綿）

産業繊維事業部

蓄積された技術で新しい分野にチャレンジ

生産部門としてのモノフィラメントは、従来用途から発展し、プロモデルにも対応するフィッシング、テニスなどのレジャー分野、３Ｄプリンター用フィラメント、ポリアミド中空糸膜などの先端工業資材分野でも活躍の場を広げています。
開発部門は、これまでに蓄積されたポリマー改質、紡糸技術などを駆使して得られる各種原糸の開発にはじまり、編織、附帯といった加工技術を施すことで、今までに無かった分野での商品展開を進めています。
生産と開発が連動し、新しい分野へチャレンジし、暮らしに役立つ繊維製品を提案しています。

ユニチカフィッシングライン

3Dプリンター用「感温性」フィラメント

ユニチカグラスファイバー株式会社

多岐にわたる製品の原繊生産拠点として

ユニチカグラスファイバー京都工場は、ＩＣ分野、産業資材分野の原繊となるガラス繊維の生産拠点として運営しています。
ガラス繊維は、電子材料やゴミ焼却炉用バグフィルター、工事用シート、防水・床材用シートなど、多岐にわたる製品群により展開されています。

ガラスヤーン

バグフィルター

防水材用クロス

ユニチカトレーディング株式会社

より良い暮らしのために新たな答えを

私たちは、衣料繊維と産業資材の二つの分野から社会の暮らしに貢献しています。
衣料繊維では素材開発から企画・生産まで一貫体制でサポートし、ジャパンクオリティを追求した高付加価値繊維をお届けしています。
産業資材ではグループの技術力とネットワークを駆使し、あらゆる業種に最適な資材を提供しています。
さらに両分野の密接な連携により、さまざまなニーズに応える新しいソリューションをご提案いたします。

「CASTLON／キャストロン」

「JUFY／ジュフィー」

「CASTLON／キャストロン」及び「JUFY／ジュフィー」は、ユニチカ株式会社の登録商標です。

ガスタービン発電設備

大型のコージェネレーション 省エネと環境貢献を実現

大型のコージェネレーションとして、大阪ガス（DGG&PS）と共同で、アメリカ・GE社製のガスタービン発電設備（30,800kW）２基、および蒸気タービン（5,200kW）を操業しています。
このシステムの導入により、高い省エネルギー性と環境への貢献を実現しました。

電気室　コンピューターによる遠隔制御と監視ができる無人の電気室となっています。

排熱を利用し、事業所の熱源として供給

ガスタービンの排熱を熱回収して製造した蒸気は、既存の蒸気タービン発電機で発電した後、事業所の熱源として供給されるシステムになっています。

www.unitika.co.jp

ユニチカ株式会社 宇治事業所

〒611-8555　京都府宇治市宇治戸ノ内5番地
TEL 0774-25-2029　FAX 06-7657-9879

P-0674_2024.03.K1101.1000P